

## 始めに

死んでいる。

殺すつもりはなかったのだが、死んでいるのだから仕方がない。どうやら殺してしまった、ということのようだ。

状況を整理してみよう。彼女は私と交際のあった女性、だった。痴話喧嘩の末、暴行に及び致死、と言ってしまったえば非常に明快で単純だが、これから私が取るべき行動は、それほど単純ではないだろう。何しろ、人が、死んだのだ。

この社会は人の死に対して非常に敏感だ。何らかの理由で人が死ねば葬式を執り行い、丁重に葬る。それが殺人であれば徹底的な調査が実施される。犯人は贖罪を求められ、そのような履歴が付いた人間は途端に社会から爪弾きにされる。

つまり私は、社会的な死の手前に位置しており、そこからの脱出を図らねばならない立場にあるわけだ。死の回避は非常に困難なことだろうと推察される。しかし不可能ではないだろう。状況を好転させる可能性があるのなら、最大限その可能性を最大化するよう努力すべきだ、というのが私の信条

である。人は考えるからこそ人であり、思考を放棄した者を私は人と認めない。

## 論点整理

まず現状の確認だ。此処は——自室だ。二階建アパートの一室。時間は夜の8時41分。天候は曇り。そろそろ秋口だがまだ気温が高く、今日は湿度も高い。目前のソファに女性の死体。死因は窒息死。絞殺痕が見えている。まだ周囲に気取られた様子はないが、先程の騒ぎがアパートの住人の記憶に残っている可能性は十分にある。いや、記憶されていると考えるべきだろう。すぐに騒ぎにはならないだろうが、明日以降は彼女の安否を探ってくる動きも出てくる。そうすれば私に追求が来るのは当然の流れだ。それまでに何か手を打たねばならない。タイムリミットは、——：：：：：そうだな、10時までを考えをまとめて、行動することしよう。ぎりぎり不審に思われない時間帯だ。さて、さしあたっての検討事項は次のように整理できる。

1. 痕跡の有無… 証拠、アリの類いだ。
2. 行動の指針… 大雑把に言っただけか逃げられるかだ。
3. 実施方法… 実施する方法は無数にある。

まずは痕跡を確認して、その上で方針を決定、実施方法を選定する。問題はないか……？

——よし、では考えていこうか。

## 痕跡の有無

此処は自室であるから、私の痕跡があるのは当然だ。彼女の痕跡があるのも当然だ。消去の必要はないだろう。では、今日彼女が此処に訪れた、という痕跡はどうだ？此処に入るところを誰かに見られていたか……？わからない。彼女は、私が帰ってきた時には既に此処に居たのだ。

彼女は合鍵を持っていて、週に2回は料理を作って私の部屋で待っていてくれる。今日もその日だった。料理は、4回前と同じものだった。前から少し気になっていたが、どうも最近メニューがローテーションで決まっているように感じていた。最初はこうではなかったのだ。彼女なりに工夫を凝らして、味付けを少し変えるなどしていたものだ。正直美味しくないときもあったが、それは気にならなかった。彼女が考えて、工夫したものなら。しかし最近はどうだ。全く同じじゃないか。私の記憶違いということもあるかと思つて今まで看過してきたが、どう考えてもおかしい。そこで私は尋ねてみた。今日は、どんな料理かな、と。彼女はこう言った。見ればわかるでしょ。いつもの通りよ、と。私は彼女のどこが好きになったのだったか。彼女は理知的なほうではなかったが、とにかく精一杯に生きていた。大学で出会った彼女は勉強に倦んだ様子もなく、積極的に教員に質問に行ったりする学生だった。整然とはしていないけれど、必死で疑問を伝えようとする彼女の顔を見つめているうちに、私はいつしか強く惹かれるようになった。彼女の熱情に。それから早かった。

卒業後、彼女は小さな会社の事務員として就職したが、それでも最初は生き生きとしていた。趣味の料理にも力を入れ、初任給で新しいレシピ本を買ったと嬉しそうに語っていたのを思い出す。

それがどうだ。いつしか仕事に慣れ、料理のレパートリーも固定化し、ぼんやりとテレビを見ていくことが多くなった。あの燃えるような熱情は、跡形もない。ああ！彼女は考えるのをやめてしまったのだ。そう気付いたとき、彼女は、彼女でなくなつた。

——いや、こんなことを考えている場合ではない。9時12分。どうも思考が冷静ではないな。最初に洗面所で顔を洗つたのだが、まだ目が覚めていないようだ。風呂に入って体を暖めれば筋肉が弛緩し肉体的にリラックスして、思考の巡りも良くなるかもしれない。精神は肉体に強く依存している。精神状態を操作するには、自己暗示と並んで肉体の状態を改善することが有効だというのが持論だ。病は気からと言うが、同程度に気も病に侵される。病とまでいかずとも、食事、睡眠時間、室温、衣服や寝具の清潔さ、ありとあらゆるものが肉体、ひいては精神に影響している。だからといって神経質になるのは本末転倒だが、精神の不調を感じたときにそういった周辺の環境を見直すことで、改善が見られたことはこれまでに何度もあつた。プラシーボであつてもいい。それは、効果があるということだ。



習慣的に彼女はこの部屋を訪れており、曜日も決まっていた。この時点で、此処に来たことを否定

するのは危険性が高いと判断できるだろう。しかし幸いなことに、このアパートには監視カメラが存在しない。彼女が此処から帰ったと偽ることは可能だ。このアパートは古くてドアの建て付けが悪く、ピッキング被害も近所で出ていることから——彼女の薦めもあって、引越し先を決めたところだった。今回の件は悪くないタイミングだ。これで、様々な工作が可能になる。

## 行動の指針

では指針を決めよう。今回の目的は社会的な死を回避すること、それが不可能ならばできるだけ今後の立場を改善すること、である。状況が絶望的であるならば自首をして罪状を軽減する方向に持っていくことも選択肢にはあった。しかし状況は悪くない。絞殺のため血液等の痕跡除去は不要であるし、死体の運搬についても引越しと一緒に行うことが可能だ。死体の保管などに課題は残るが、証拠さえなければ家宅捜索が行方不明段階で行われるということもないだろう。有望な選択肢として死体隠匿が残っている以上、これを中心に検討するのが得策だ。警察の構造上、事件が判明さえしなければ大規模な捜索が行われることは、まず無いと見てよい筈だ。

ああ、そういえば自殺するという選択肢も有り得るか。どうでもいい選択肢だが、確認は必要だ。死んだら思考することができない。従ってこの選択肢を選ぶときは、私が私でなくなつたときだろう。考えたくはないが……。今回は大丈夫。

死体を隠匿する方向で、具体策の検討に移ろう。今は——まだ9時21分か。

## 実施方法

大卒はこうだ。この場で死体に防腐処理を施し、一定期間保管した後引越しと共に運び出す。できれば解体は行いたくないが、必要なら態勢を整えてから行う必要がある。このアパートでは音が筒抜けだ。外部での作業はリスクが高過ぎるし、引越し先での作業になるだろう。

腐敗すれば移動すら困難になる上、新たな痕跡も残りかねない。今は秋口だが温度も湿度も高い。防腐処理は早めにすべきだ。本格的なエンバミングはできないし、する必要もない。さしあたり血抜きを実施しよう。血液は風呂に流すと検査があった場合に面倒なことになりそうだから、洗濯機にでも流して、最後に漂白剤を入れて洗濯すればいいだろう。血抜きには時間がかかるな……。残りの懸案事項は作業をしながら考えていこう。まずは風呂から上がらなければ。

「ねえ」

耳慣れた声が聞こえた。脱衣所に影。

誰の声だったか。いや——忘れる筈がない。彼女だ。

しかし、そんな筈は、ない……いや、……そう言い切れるか？

どうして息を確かめなかった？

どうして脈を確かめなかった？

どうして、ちゃんと、殺しておかなかった？

咄嗟に否定したのは、認めたくなかったからか？致命的なミス。冷静に行動しているつもりで、全く冷静ではなかったらしい。こんなミスを犯すとは……、どうかしている。まったく……。今後の課題だろう。だが、起こってしまったことは仕方がない。9時31分。まだ慌てるような時間ではない。

状況を、整理しよう。





あとがき、或いはこじつけの着想

人間は考える葦であり、

葦は悪しでもあり、

そして葦はまっすぐで強い。

葦の髄から天井を覗くとどうなるのだろうか。

彼あるいは彼女は、そんな人間です。

――

科学的アプローチというものは、

常に観測結果に基いて行われる。

それは即ち過去に基いて判断するという行為に他ならない。

というわけでテーマ「過去」をクリアするということで、ひとつ。

あとあれだ。この物語はフィクションです。

現実の犯罪行為を推奨するものではありません。

字数は3600字ちよいくらいです。たぶん。